

# くすのき

発行:八幡市教育委員会 令和5年(2023年)11月15日  
URL <http://www.city.yawata.kyoto.jp/>

## 第81号

### おもな記事

- ◆八幡浜市との中学生交流 1・2面
- ◆八幡市文化賞・スポーツ賞表彰 2面
- ◆放課後児童健全育成事業 3面
- ◆教育に関する相談及び不登校に係る支援 3面
- ◆寄贈 3面
- ◆南ヶ丘教育集会所の取組 4面
- ◆橋本幼稚園の取組 5・6面

## 八幡浜市の中学生と交流しました

令和5年8月16日(水)から18日(金)の日程で、本市中学生20人が愛媛県八幡浜市を訪問し、八幡浜市の中学生19人と交流しました。

八幡浜市は二宮忠八翁の生誕の地であり、八幡市は晩年を過ごした地であるということ、また地名が「八幡」という字だけでなく、「やわた」の読みも一致していて、両市には非常に深い縁があるということから、平成25年度より両市の中学生交流事業が始まり、今年で10年目となりました。

この交流は、次世代を担う子どもたちが、異なる地域の歴史、文化、都市環境及び自然環境等を学ぶことで、あらためて自分たちの地域を見つめ直し、郷土に対する誇りと魅力を再認識するとともに、豊かな人間性や社会性を育むことを目的としています。

交流1日目は、歓迎式典の後、両市の中学生が自分のまちを紹介するプレゼンテーションを行いました。次に、二宮忠八翁の半生を描いたミュージカルを鑑賞し、忠八翁の偉大さを学びました。

2日目は、朝から二宮忠八翁ゆかりの地を巡り、各スポットで出題されるクイズを解きました。そこから海に移動し、地元漁師らの協力のもと地引き網体験を行い、地引網で獲れた魚は焼いて、昼食でいただきました。



二宮忠八にまつわるクイズを解く生徒



地引き網体験の様子

午後からは、かまぼこ板を積み上げた高さを競い合う「BOCOタワー選手権」を行ったあと、八幡浜市唯一の有人島である大島を周回するクルージングを楽しみました。夕食は、八幡浜市の中学生自らが調理した魚料理をいただきながら、互いの市や中学校生活の話などに花を咲かせました。

3日目は、「八幡浜市水産物  
地方卸売市場」と「どーや市場」  
を見学したあと、八幡浜市役所  
で送迎式典があり、中学生らは  
別れを惜しみつつ、お世話になっ  
た八幡浜市の方々に見送られな  
がら帰路に着きました。

来年度は八幡浜市の中学生が  
本市を訪問する予定となってい  
ます。八幡市の魅力ある歴史・  
文化を体験してもらいながら両  
市の友好関係を深めていきます。

(学校教育課)



送迎式典での集合写真

## 八幡市文化賞・ スポーツ賞の表彰

令和5年11月3日(金・祝) 八幡市文化  
センターにおいて、八幡市文化賞・スポー  
ツ賞の表彰伝達式が行われ、小学生・中学  
生が対象となるジュニア賞では、26人1団  
体の児童生徒が受賞されました。  
受賞者は次のとおりです。

(敬称略・順不同)

### 【文化賞・個人】

- ▽西本 葵 (男山第二中・書道)
- ▽堤下 一薫 (男山中・書道)

### 【スポーツ賞・個人】

- ▽長尾 杏虹 (南山小・空手)
- ▽谷 柚嬉 (男山中・空手)
- ▽石田 琉維 (男山中・剣道)
- ▽行田 光希 (くすのき小・柔道)
- ▽中尾 優亜 (美濃山小・柔道)
- ▽行田 奈由 (くすのき小・柔道)
- ▽福本 未玖 (男山中・水泳)
- ▽團 美寿々 (男山第三中・水泳)

### 【スポーツ賞・団体】

- ▽パンプキン小学生団体女子の部  
(バドミントン)

(生涯学習課)

- ▽田島 璃子 (男山第二中・相撲)
- ▽津山 華子 (さくら小・ソフトテニス)
- ▽本庄 明莉 (橋本小・ソフトテニス)
- ▽和泉 晴大 (くすのき小・卓球)
- ▽加藤 未彩 (美濃山小・バドミントン)
- ▽新屋 もも (南山小・バレーボール)
- ▽新屋 さくら (金蘭会中・バレーボール)
- ▽松井 暖々 (男山第三中・陸上)
- ▽澤口 紗奈 (男山第三中・陸上)
- ▽吉水 吉砂 (男山中・陸上)
- ▽鷗野 咲幸 (男山第二中・レスリング)
- ▽藤本 朔夜 (男山第二中・レスリング)
- ▽小西 寿 (男山第二中・レスリング)
- ▽鷗野 大河 (男山第二中・レスリング)
- ▽由井 詠葉 (男山第三中・レスリング)
- ▽由井 仁之介 (男山第三中・レスリング)

## 放課後児童健全育成事業

八幡市では、保護者が就労等の理由で昼間家庭にいない小学生に対して、学校内や児童センター等を利用して放課後の生活の場であったり、遊びなど安心して過ごせる場所を提供して健全な育成を図る放課後児童健全育成事業を実施しております。市内8つの小学校区において平日は放課後から午後7時、夏休み等の学校の長期休業中は午前8時から午後7時、土曜日は午前8時から午後6時まで全9施設で実施しております。

小学1年生から6年生までの児童が利用可能で令和5年5月1日時点で810人の児童が入所しております。



(こども未来課)

### 教育に関する相談及び 不登校に係る支援

#### 【問い合わせ】

八幡市教育支援センター

所在地：八幡市男山笹谷2

電話：075-982-3001

時間：平日 午前9時～午後5時

#### 教育に関する相談

市内在住の幼児・小・中学生とその保護者の相談に、専門の相談員及びカウンセラーが応じます。

#### 不登校支援 教育支援教室「さつき」

個別・小集団での活動や学習を通して、社会性を培うとともに、自立を促し、学校生活への適応や社会的自立を図ります。

市内の小・中学校に在籍する児童・生徒が対象です。

※学校または教育支援センターに電話でお申し込みください。

### 寄贈

○株式会社 Living Color 様、株式会社 A-frame 様、  
里山装飾 様、八幡 SPORTS 様、光井建装 株式会社 様から  
市内全小学校に入学した新一年生児童へ防犯ブザー（505個）

○石川 純 様から八幡こどもセンターにターゲットライフルブラック（2セット）、  
出目金魚（50個入4袋）、ミニオンズキャンディー消しゴム（12個入り1袋）

(こども未来課)

# 南ヶ丘教育集会所の取組内容

南ヶ丘教育集会所は、八幡市内の学習支援活動の拠点として、  
様々な事業を行っています。

## 【学習支援事業】

児童・生徒の学力充実を図る取組や課題解決を目指した支援・助言を各学校と連携を取りながら行っております。また、保護者の方からの教育相談等も随時行っています。

自学自習や家庭学習の習慣化、基礎学力の定着、学習上の課題解決を目的に、宿題や各自の課題等に自学自習形式で取り組む学習会（小学生は平日の放課後から午後6時まで、中学生は平日の午後6時から8時まで）を行っています。学習指導には、教育指導員や、市内在住の大学生等の補助指導員があたっています。

また、小学6年生対象の英語入門講座や、検定合格を目標とした中学生対象の英検対策講座、漢検対策講座を行っています。

## 【やわた放課後学習クラブ】

児童の自主学習力と学習意欲の向上、基礎学力の向上、放課後の児童の居場所づくりを目的に、小学5・6年生を対象としたやわた放課後学習クラブを実施しています。毎週水曜日の放課後と土曜日の午前中に市内全小学校で開催しています。自学自習形式で問題集や学習プリントに取り組み、漢字検定・数学検定を受検するためのチャレンジ学習を行っています。また、苦手な箇所の学習や、興味のある学習に取り組めるよう、児童自身で取り組む教材を選択できる時間も設けています。

## 【地域による寺子屋事業（家庭学習応援）】

令和5年度に、さくら小学校区及び中央小学校区において試行実施します。

地域のボランティアによる放課後の学習支援を実施することで、児童の学力向上及び、児童と地域とのつながりを創出し、その中での家庭への声掛け等によって家庭の教育への意識向上を図ります。小学1・2・3年生を対象として、宿題の支援や見守り等を週2回行います。学習終了後は、放課後児童健全育成施設等、途中まで地域のボランティアが下校する児童を見送ります。

(南ヶ丘教育集会所)



わくわく どきどき もっと遊びたい！  
～ 幼児の心の動きを探る～

## 橋本幼稚園の取組

橋本幼稚園では、今年度、八幡市立幼稚園・こども園教育研究会公開保育の指定園として「わくわく どきどき もっと遊びたい！ ～ 幼児の心の動きを探る～」という研究テーマの基に研究を進めています。

近年、少子化が進むと共に、園児数が減少しています。園児の姿を見てみると、比較的温かな幼児が多く、トラブルになることは少ないです。大人の目が行き届いているためか、困っていることを伝えにくかったり、失敗を避けようとしたりする姿も見られます。事前に、大人が危機を避けられるように手助けしているのかもしれない。

そこで、橋本幼稚園では、幼児の表情や言動・姿勢などから、なぜこのような姿になったのかを捉えられるように、フォトカンファレンスを始めました。保育終了後、10分間程度ですが、教職員全員が集まり、1枚の写真を見て、非認知能力が育っていく過程について話し合うことを、週2回続けてきました。そうすることで、幼児の心の声を聴くように意識し、やろうとしている幼児の思い（過程）を大切に関わるようになってきました。



1枚目は4歳児と3歳児がプランターに土を入れている場面です。4歳児は、経験があるので教えてあげようと思っているようですが、3歳児は、入園して間もない5月ということもあって、少し緊張しているようでした。私たちは異年齢交流の中で、大きい子が小さい子に優しくしましようと言いがちですが、双方の思いを感じ取りながら進めないといけないと感じました。

2枚目は、筆に水をつけて土管の中に入り絵をかいていた後の写真です。A児が「いいこと考えた」と、今度は葉に塗ることを思いつき、B児がそっと見つめている様子です。友達を見るまなざしが温かく、好きな友達がやっていることを自分でもやってみようとしているように見えました。自分で考えてみたことを試してみたり、友達と同じ思いでいられる時間と空間を準備したりしていくことの大切さを感じました。



3枚目は、ダンゴムシをバケツに入れて見つめている写真なのですが、同じものを見ていても、C児は、真剣に見つめ何かを考えているようであり、D児は、ダンゴムシの動きが面白かったのかとても笑顔です。同じ空間にいて同じものを見つめていても、感じ方は違うようです。そのことに気づきながらどのように言葉をかけていけばいいのかを探っています。

このように、写真を見て感じたことを職員同士で話し合うことで、様々な考え方があることを知ったり、幼児への関わり方を共有したりすることができました。このカンファレンスを継続しながら、幼児の思いに寄り添い、たとえ失敗しても次へ進めるように援助し、わくわく ときどきしながら、もっと遊びたいと思える環境づくりに取り組んでいきたいと考えています。

(子育て支援課)

